第２章　東亞考古学会による原の辻遺跡調査の経緯

宮本一夫・松本圭太

１．はじめに

1926年に組織された東亞考古学会は、1927年の遼東半島の高麗寨遺跡や単砣子遺跡の発掘調査を皮切りに、日本の中国東北部への権益の拡大に伴い、黒龍江省東京城、内蒙古の赤峰市紅山後遺跡や元の上都の発掘調査に拡大する。さらに、1937年に始まる日中戦争後は、山西省や河北省の調査に拡大し、1941年の前漢の萬安北沙城の調査まで続いている（宮本2017）。戦後、大陸での調査を失った東亞考古学会では、東京大学の駒井愛和が靺鞨との関係を求め、北海道のオホーツク文化の発掘調査に移った。一方、京都大学の水野清一は、朝鮮半島に近い対馬、壱岐、唐津での調査を行うこととした。

その皮切りは、1951年の９学会による対馬の総合調査であった（水野・樋口・岡崎1953）。その帰りに立ち寄り調査が行われたのが、壱岐の原の辻遺跡の第１次調査である（表１）。その調査は、原の辻遺跡の集落の本体部分にあたる低丘陵部の東北端にトレンチを設定した（図５）。上下の２層に分層され、その上層の土器が、弥生中期の須玖式と後期の高三潴式の中間の土器型式として、原の辻上層式と呼ぶべきとされた（水野・岡崎1954）。なお、第１次調査の発掘地点は、1939年に鴇田忠正氏による発掘調査地点（鴇田1944）に隣接して設定されている（高倉1982）。

1952年のカラカミ遺跡の調査（宮本編2008・2009・2011・2013）を経て、1953年から本格的な原の辻遺跡の発掘調査が始まっている（表１）。第２次調査である。この調査は、集落遺跡の中心部分に位置しており、東西方向に四つのトレンチが配置された（図５）。また、第５地点では甕棺墓が検出された。第２次調査時には、壱岐全島の一般調査も併せて行われ（表１）、妙泉寺古墳群や鬼の窟古墳の発掘調査も実施されている（宮本編2018）。

1954年には、春と夏の２回にわたって発掘調査がなされ、前者が第３次調査、後者が第４次調査である（表１）。第３次調査は、1953年３月に土木工事に際して、石田地区の墓群から銅剣・銅矛が発

表１　東亞考古学会による壱岐島調査一覧

年度	遺跡名	調査区	調査期間	団長	参加者
1951（昭和26）	原の辻第１次調査		7.24～8.7	水野清一	金関丈夫、藤田国雄、岡崎敬、高橋猪之介、西谷眞治、森貞次郎ほか
1952（昭和27）	カラカミ遺跡	第１トレンチ 第２トレンチ	7.25～8.11	水野清一	藤田国雄、岡崎敬、高橋猪之介、金関恕、金関丈夫、森貞次郎
	一般調査		7.25～8.10		樋口隆康、林巳奈夫、西谷眞治ほか
1953（昭和28）	原の辻第２次調査	第１トレンチ 第２トレンチ 第３トレンチ 第４トレンチ 第５地点（甕棺出土）	7.24～8.12	水野清一	有光教一、岡崎敬、楢崎彰一、藤田国雄、金崎丈夫、森貞次郎、高橋猪之介ほか
	一般調査	妙泉寺古墳群 鬼の窟古墳	7.26～8.10	水野清一	樋口隆康、林巳奈夫、西谷眞治
1954（昭和29）	原の辻第３次調査	閨繰遺跡	3.22～3.26 4.11～4.20	水野清一	西谷眞治、金関恕、Kidder
	原の辻第４次調査	第Ⅰトレンチ 第Ⅱトレンチ 第Ⅲトレンチ 第Ⅳトレンチ 銅剣・銅矛出土地（推定）	7.18～8.18		藤田国雄、岡崎敬、高橋猪之介、金関恕ほか
1961（昭和36）	原の辻第５次調査	第１・４・５トレンチ 第２・３トレンチ	7.22～8.11	水野清一	岡崎敬、潮見浩、三木文雄、藤田国雄、高橋猪之介、秋山進午、西谷正

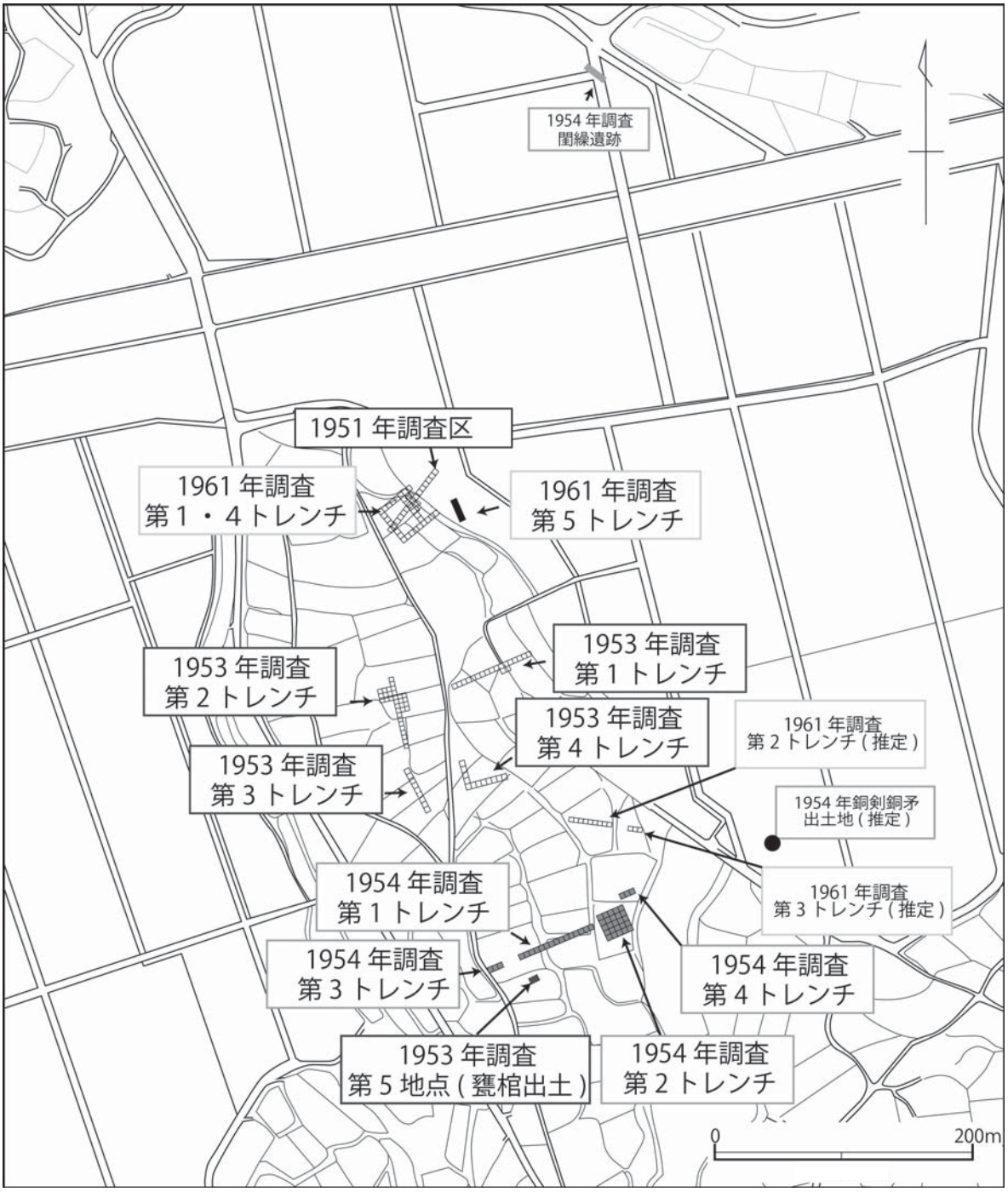

図５　東亜考古学会による原の辻遺跡調査地点（縮尺1/5000）

見されたことにより、同年４月に現在で言う緊急発掘調査的な位置づけで、閨繰地区において石棺墓と甕棺墓の発掘調査がなされたものである（宮本編2018）。同年７・８月には、本来の調査目的であった集落部分の調査行い、低丘陵部の南側部分に四つのトレンチを設定した（図５）。

1961年には、東亜考古学会としては最後の調査である第５次調査が実施された。第１次調査区を囲むように「ロ」の字型のトレンチである第１・第４トレンチが設定された。さらにその東に第５トレンチである。原の辻上層式を検討するために、第１次調査と同じ地点にトレンチが設定されている。さらに、1954年銅剣・銅矛出土地点の西側に第２トレンチと第３トレンチが設定された。この第５次

調査が東亞考古学会としても最後の調査となった。
　以下に、調査日誌（抄）を掲載する。

２．原の辻遺跡調査日誌（抄）

（ａ）第１次調査

1951年（昭和26年）
７月21日　晴
　京都、水野清一宅に高橋猪之介、藤田国雄が集合。今後の壱岐調査について、水野よりおおよその指示を受ける（現場監督および報告書における遺跡説明は森貞次郎に依頼する旨、調査費ほか）。同日午後、測量道具他を博多に搬送。
７月22日　晴
　高橋、藤田が京都を出発する。
７月23日　晴
　両名博多着。森貞次郎、岡崎敬、金関教授令息（金関恕？）が出迎える。夕刻より県職員会館にて打ち合わせ（参加者：金関丈夫、森貞次郎、高橋猪之介、岡崎敬、川端眞治、藤田国雄、西日本新聞記者）。
７月24日　晴
　参加者：金関丈夫、森貞次郎、高橋猪之介、岡崎敬、川端眞治、藤田国雄。８時に大衆丸にて博多出発。
　午後12時、郷ノ浦到着。壱岐全景を南方より撮影。曽野壽彦、山口麻太郎らとともにバスにて安国寺へ。山口の案内で原の辻遺跡の予備踏査を２時間程度行い、トレンチ設定地の見通しを立てる。黒曜石片、土器片、石鎌破片を得た。下村光春、鮎川昭ら来訪。
７月25日（水）　晴
　午前、第１班（金関、高橋、森）は田河町役場に向かい、町長（松永利光）に挨拶。その後、郷ノ浦役場にて、教育庁出張所主事（長島泰雄）、土木課長（佐田清吉）に挨拶し、発掘機材を借用。第２班（岡崎、藤田、川端）は高校生３名（増田義一、野本土廣、後藤精二）に竹べら作製を依頼。地主ら（西川栄治、髙田友満）に挨拶、交渉し、発掘許可を得る。その後、石田村平触の合口甕棺出土地を地主（山口良明）の案内にて踏査、付近の鬼の窟古墳を見学。
　午後、岡崎、藤田、川端、森が田河中学校に赴き、校長代理に挨拶。鴇田忠正、たばこ屋（藤江トセ）が来訪。藤江により土器４個が提示される。
７月26日（木）　晴
　調査員：金関丈夫、森貞次郎、高橋猪之介、岡崎敬、川端眞治、藤田国雄、山口麻太郎、鴇田忠正、藤岡謙二郎、平山敬治郎、後藤綱賀、下村光春、林（深江中学校教官）。壱岐高校生として後藤義輝、亀井寛、竹下三郎、長崎大学生として吉富孝汎が参加。毎日新聞、西日本新聞記者が来訪。
　９時半、作業開始。地主（西川栄治）立会の下、２ｍ×30ｍの発掘地点を決め、第Ｉ地点と命名。午後、２ｍ幅に各区画をａ～ｏと命名、全ての表土を剥ぐ。約一尺掘ると、黒灰色有機土を確認、ａ～ｃ、ｆ～ｈをさらに掘り下げるが、遺物層に至らず。表面採集にて黒曜石片、突帯を有する土器片を得る。対馬調査から藤岡謙二郎が来訪、原の辻遺跡周辺の地形、岩石を観察、所見を述べる。
　夕刻、付近（別地点）の土地所有者の案内にて、包含層、甕棺露出面などを見学。

７月27日（金）　晴

午前、金関、高橋は石田村長（松永英太郎）に挨拶、同村印通寺君ヶ浦の黒曜石露出部を調査。

調査員：森貞次郎、岡崎敬、川端眞治、藤田国雄、藤岡謙二郎、鴇田忠正。深江中学校林教官以下中学生13名、武生水高校生８名（村上成義、池内春俊、野本土弘、後藤義輝、日高弘隆、山内キヨ子、竹内ミサ子、吉本夕子）、長崎医大学生（大蔵元廣）、作業員（中村吉彦、松野秀吉）。午後より高橋が調査に加わる。

午前、昨日に続き、a～c、f～hをさらに掘り下げる。褐色土層（約１m）下に黒色土層を確認。褐色土層より、漢式土器破片？、鉄銛？（b区）、土錘（g区）が出土。

午後、黒色土層より、土器、獣骨（b区）、甕棺、壷、獣骨（h区）を検出。川端、林によりa～o区の標高を測定。

上記他、かやの実？（b区）を検出、採取した。

７月28日　晴

調査員：金関丈夫、藤田国雄、川端眞治、高橋猪之介、森貞次郎、岡崎敬。深江中学校林教官、田河中学生18名、壱岐高校生８名、作業員２名。

a区南壁にてイノシシ前膊骨（深さ75cm）、その上部にて漢式土器（深さ35cm、55cm）を検出。b区にて、石囲い内に粘土を巻いた土器を検出。e・f区境界（川端、高校生、作業員）にて、高坏坏部、壷口縁部を検出。h・g区（岡崎、川端、藤田）にて、昨日検出の甕棺を掘り下げ、埋置状況を確認。その周辺に甕、壷、イノシシ下顎骨を検出。壷のみ取り上げる。g区黒色土層上部排土内で鉄器採集。午後３時、水野清一が現場に到着。

７月29日　晴

調査員：金関丈夫、水野清一、藤田国雄、高橋猪之介、川端眞治、森貞次郎、岡崎敬。壱岐高校生７名、福岡高校生７名、作業員２名、青年団２名。午前のみ林教官および中学生６名。

午前、a・b・c区にて甕棺？を検出。f区の土器包含層清掃、下方に土器、甕棺、イノシシ歯を検出。g・h区にて甕棺実測（川端）。m・l・k区（林教官および中学生）にて、掘り下げ。

午後、a・b・c区を掘り下げ。a区より、漢式？土器片検出。c区より古伊万里が検出（深さ80cm）され、かなりの攪乱が認識される。h区の北側に２×２mの拡張区設定。拡張区を１m掘り下げるが、遺物層に到らず。m・l・k区は深さ1.5mにて遺物層が断絶。l区にて小甕棺（深さ90cm）、炭化穀物検出。

７月30日　晴

調査員：水野清一、森貞次郎、藤田国雄、高橋猪之介、岡崎敬、川端眞治。壱岐高校生７名、福岡高校生10名、深江中学生３名、作業員２名。午後３時より、福岡学芸大学生３名が加わる。

午前、b区にて甕棺清掃、写真撮影、実測（藤田）。c・d区を南壁に沿って幅１mで約２m掘り下げ（森、福岡高校生）。e・f区にて土器堆積を実測（岡崎）。g・h区の北側に接する拡張区（h区に接する２×２mのp区および、g区の西半分に接する１×２mのq区）を設定。k・l・m区を南壁に沿って幅１mで掘り下げ（鴇田、深江中校生）。

午後、宿舎にて土器洗浄。

黒土層（第一包含層）は表土下80cm、厚さ40cmであるが、k・l区ではやや薄い。c・d区では、黒土層下に厚さ約80cmの非包含層があり、その下に須玖式土器を含む第二包含層が見いだされた。非包含層はf区においては厚さ20cmである。p・q区境界付近に完形土器が多く検出された（器台３、壷３、小壷４）。k・l・m区では２m以上掘り下げたが、包含層は認められなかった。m区南壁面の

黒土層より小児甕棺口縁部検出。

７月31日　晴

調査員：水野清一、森貞次郎、高橋猪之介、岡崎敬、川端眞治、藤田国雄、鴇田忠正、日高顕。福岡学芸大学生３名、福岡高校生６名、壱岐高校生10名、作業員２名。

ｂ区平面、断面実測（藤田）。ｄ区第一包含層下を掘り下げ、約50cm で第二包含層に到り、須玖式丹塗り壷、甕を検出（福岡高校生）。ｆ・ｇ区清掃（福岡高校生）。ｐ・ｑ区清掃（高橋、川端、福岡学芸大学生）。ｌ ｍ区掘り下げ、岩盤にあたる（壱岐高校生）。日高および壱岐高校生が測量を開始し、斜面の高低測量を岡崎、川端が行った。

８月１日　晴

調査員：水野清一、森貞次郎、高橋猪之介、藤田国雄、川端眞治、岡崎敬、鴇田忠正、日高顕。金関恕（３時到着）。福岡学芸大学生３名、福岡高校生６名、壱岐高校生、作業員３名。

午前、ｉ・ｊ区間を貫通（作業員３名）。ｈ・ｐ・ｑ・ｒ区を清掃、ｑ区東よりガラス小玉１点検出（川端・高橋・岡崎）。ｆ・ｇ区を１ｍ下げ、下層土器（須玖式）層を検出（福高生）。ｃ・ｄ区も掘り下げ、下層土器層に到る。ｂ区にて小甕棺実測（藤田）、断面実測（森）を行う。

午後、ｒ区で銅鏃、石剣片検出（芸大生：鷹野重三）。ｂ区甕棺周囲の配石状況確認（藤田・岡崎）。写真撮影（高橋）、断面実測（森）を行う。

８月２日　晴

調査員：水野清一、森貞次郎、藤田邦夫、高橋猪之介、岡崎敬、川端眞治、金関恕、鴇田忠正、日高顕。壱岐高校生８名、作業員３名。（婦人会にて水野講演。）

ｂ区の甕棺取り上げ。甕棺の第２包含層への食込みを確認、外側よりイノシシ歯２点採取（藤田）。ｅ・ｆ区にて、第一層土器を採取、掘り下げ（岡崎、水野）。ｆ区第一包含層より棒状鉄製品、石斧、貨泉（壱岐高校生前田徹文）、鉄斧（中村吉吾）発見。ｅ・ｆ・ｇ・ｈ区の俯瞰撮影後、甕棺周辺の土器片を取り上げ、周囲を掘り下げる。直下に須玖式土器口縁部を多数検出。ｐ・ｑ区にて実測（川端、金関）、ｒ区を清掃。ｉ・ｊ区では、第一包含層が薄く、第二包含層に直ちに達した。須玖式土器、石包丁片を検出。地形実測を日高、鴇田、壱岐高校生３名にて行う。

８月３日　晴

調査員：水野清一、森貞次郎、高橋猪之介、岡崎敬、川端眞治、金関恕、藤田国雄、鴇田忠正、日高顕。壱岐高校生16名、作業員３名。（水野、石田村長松永英太郎を午前に訪問。）

ａ・ｂ・ｃ・ｄ・ｅ・ｆ・ｇ区掘り下げ。第一、第二層土器取り上げ（藤田、岡崎、壱岐高校生）。砥石検出。ｃ・ｉ・ｊ区実測（岡崎）、ｉ区第二層土器取り上げ。ｐ・ｑ区実測（川端、金関）完了後、第１層土器取り上げ（川端、金関、高橋、岡崎、藤田）。鉄鏃、管玉４点、石剣検出。ｊ・ｋ区第二層まで掘り下げ（作業員２名）。日高、地形実測を続行。第一、第二層の断面にて堆積状況調査（森）。

８月４日　晴

調査員：水野清一、森貞次郎、藤田国雄、高橋猪之介、岡崎敬、川端眞治、金関恕、鴇田忠正、日高顕。壱岐高校生９名、作業員３名。

早朝より、ｒ区およびｈ区甕棺断面実測（川端、金関）。ａ区第一層にて須玖式土器検出、午後、蹲った犬？の遺体を検出（森、水野）。ｄ区掘り下げ。第二層下は青色粘土層であり、本層底に木実、葉を含む有機層検出。ｇ区基盤層確認。ｈ区甕棺内清掃、甕棺内より玉１点、鉄製品１点（高橋、川端、金関）、頭蓋骨、臼歯、犬歯等検出（岡崎により実測）。ｐ・ｑ区掘り下げ、銅鏃１点、凹石１点、魚骨検出。ｊ区にて石剣出土、基盤層を確認。ｒ区に２×２ｍの拡張区を設定。夕刻、人骨および犬？

骨出土状況を写真撮影（高橋）。
８月５日　晴
調査員：水野清一、森貞次郎、藤田国雄、高橋猪之介、岡崎敬、鴇田忠正、日高顕、川端眞治、金関恕。壱岐高校生６名、作業員３名。
a 区にて昨日検出した犬骨を実測（金関）、午後取り上げ（森）。掘り下げ、基盤層を確認。a 区東壁側半分では、第一、第二層土器が混在、基盤上の青色粘土層に達する。h 区の甕棺、人骨の取り上げ。ガラス玉３点発見。上下棺接合部にのみ粘土がみられ、甕棺下の施設は確認できず。I・J 区にて赤褐色の焼土面を辿ると、h・i 区境界から急に下降する状況を確認。p・q・r 区では同深度で焼土を確認できず。p・q 区全体を30cm 掘り下げ、第二層土器を少量、黒曜石鏃１点確認。r 区にて第一層土器、器台（完形）、カマド石を採集。h・r 区境界にて、壷（ほぼ完形）が斜下向きで確認され、壷内部に籾粒が多数認められた。本来、第一包含層に属するものが倒れたものと認識。
トレンチ周辺部の地形測量完了、本遺跡発掘も完了。
８月６日　晴
二班にわかれ、一班（水野、森、高橋、藤田、川端、金関）は印通寺にて松本コレクション調査、もう一班（岡崎）は埋め戻し作業。田河村深江青年団有志によって、午後７時半終了。他に、r 区第二層の土器片、獣歯取り上げ、土器水洗作業を行う。
８月７日　晴
午前、森は印通寺へ向かい、水野は田河町役場に挨拶。高橋、岡崎は石田村役場にて松本友雄コレクションの実測、撮影。
午後、水野、高橋、藤田、川端、金関が武生水支庁に挨拶。山口氏宅にて原の辻の遺物を実測、撮影。岡崎、安国寺にて遺物梱包。
８月８日　晴（船中、福岡で夕立）
午前、バスにて郷ノ浦へ。11時30分出航。３時博多入港。森が高校生２名とともに出迎え。裏辻憲道氏宅で休憩後、西日本新聞社の加藤氏を訪問。19時解散。

（b）第２次調査

1953年（昭和28年）
７月23日　晴
参加者：水野、有光、岡崎、藤田、川端、林、Elligiers、高橋、楢崎、松田、赤司
８時、霧島丸にて博多出航。森貞次郎氏見送り、朝日新聞社写真班松田氏、貴社赤司氏同行。
12時半、郷ノ浦着。山口麻太郎氏、石田小学校林氏らと打ち合わせ。岡崎、川端、林、高橋、藤田が荷物とともに宿舎安国寺へ。林、川端は安国寺に残る。水野、山口、Elligiers、有光、楢崎は壱岐支庁、那賀村村役場、瀧山敏（平山医院）に挨拶、鬼の窟古墳見学後、安国寺到着。藤田、高橋、岡崎が田河村小学校、田河町役場に挨拶。夕刻、原の辻遺跡現地予備調査。
７月24日　晴
参加者：水野、有光、高橋、岡崎、藤田、樋口、Elligiers、林、後藤マラソン翁、松田、赤司、田河中学校教員（１名）・生徒（20名）
岡崎、藤田による表面採集にて黒曜石鏃、漢式土器片など発見。トレンチ（A ～ Q 区）設定（34×２m）後、表土剥ぎ。F 区地表下10cm にて貝層検出。
７月25日　快晴

参加者：水野、有光、高橋、藤田、岡崎、Elligiers、楢崎、赤司、ほか学生・作業員など22名

Ａ～Ｇ区掘り下げ。Ａ～Ｅ区まで地表下１ｍまで土器細片含み、１ｍ附近より破片大きくなる。いずれも黒褐色土層。砥石、猪歯、漢式土器口縁部（Ｄ・Ｅ表土層）、石包丁、黒曜石片出土。

７月26日　快晴

参加者：岡崎、楢崎、藤田、Elligiers、田河中学校教員（１名）・生徒（12名）

Ｆ、Ｇ区それぞれに２×２ｍの拡張区設定（F1、G1）。G1区より鉄鏃、須玖、高三潴式土器片出土。Ｅ区より遠賀川式甕片、Ｆ区より須玖式土器片、Ｇ区貝層より高三潴式土器片出土。

７月27日　快晴

参加者：水野、高橋、藤田、楢崎、岡崎、有光、後藤綱賀、赤司、松田、ほか学生・作業員など19名

N7とN8の間、直角に16m延ばし、４ｍさらに東に延ばす（第２トレンチ）。I、Ｊ区、粘土層に到る。高橋、遺跡附近撮影。

７月28日　快晴

参加者：水野、岡崎、楢崎、高橋、Elligiers、藤田、後藤、林、松田、赤司、ほか学生・作業員など21名

第２トレンチを16m延長、Ｋ～Ｒ区とする。Ｂ～Ｃ区にて須玖式土器層の下に遠賀式川土器確認。Ｄ～Ｊ区にて竪穴住居址存在の可能性。Ｉ区にて猪牙、Ｋ区にて敲石、Ｌ区にて石錐発見。

７月29日　快晴

参加者：水野、有光、高橋、藤田、楢崎、金関、岡崎、渡邉正氣（九大）、山田清（学芸大）ほか学生・作業員など17名

第２トレンチ？：Ｂ・Ｃ区にて遠賀川式土器層検出。Ｅ・Ｆ区にて炭化籾相当数出土。Ｋ～Ｑ区排土作業。Ｋ～Ｍ区において、少量の須玖式土器細片および炭化物含む黒色土を掘り下げ、赤土粘土基盤層に達する。Ｐ区にて小型クド石、凹石検出。

７月30日　快晴

参加者：水野、有光、藤田、高橋、楢崎、金関、岡崎、Elligiers、佐藤、渡邉正氣（九大）、山田清（学芸大）ほか学生・作業員など23名

第２トレンチ：Ｃ区に接する拡張区（Ｓ・Ｔ・Ｕ区、各２×２ｍ）を設定。Ｆ・Ｈ区より籾、Ｋ区より銅鏃（地表下78cm）を検出。Ｐ区は土器多く、鉄鎌出土。Ｕ区でも鉄鎌（地表下45cm）が出土し、排土中より鉄釘のようなもの検出。Ｈ・Ｋ・Ｌ・Ｍ区実測。

７月31日　快晴

参加者：水野、有光、岡崎、藤田、佐藤、金関、山田、森、高山、ほか学生・作業員など18名

第１トレンチ：貝層より砥石、石包丁２点出土。

第２トレンチ：Ｅ～Ｇ区に接する拡張区（E’・E”・F’・F”・G’・G”区、各２×２ｍ）を設定後、拡張区掘り下げ、地表下60cmにて須玖式土器層。E’区にて石包丁検出。Ｏ・Ｐ・Ｓ・Ｔ・Ｕ区平面実測。Ｍ・Ｎ区境界にてガラス玉、Ｏ・Ｐ区境にて漢式土器片、Ｑ区にて鉄鎌、鉄鏃、銅鏡出土。Ｓ・Ｕ区においても鉄器出土。

８月１日

参加者：水野、有光、高橋、藤田、楢崎、森、佐藤、高山、金関、山田、岡崎、ほか学生・作業員など37名

第１トレンチ：貝層（厚５－10cm）より高三潴式土器、鉄片、漢式土器出土。貝層下の黒色土層

より須玖式土器多く検出。石包丁、磨製石器片、棒状土製品、骨製品、籾、獣骨も検出。

第２トレンチ：Ｅ～Ｇ区および拡張区Ｅ～Ｇ”区にて、円形竪穴住居の東・西・南壁を検出。直径5.20m、床面は地表下30cmで住居内より多くの籾、豆？を検出。他、石斧、鉄製品、遠賀川式・須玖式土器も検出。Ｏ・Ｐ区で敲石、漢式土器など、Ｑ区で棒状鉄製品、麦、籾を検出。

第三、第４トレンチを設定。

８月２日　曇

参加者：水野、有光、森、岡崎、金関、藤田、佐藤、高山、山田、浦田、楢崎、ほか学生・作業員など39名

第２トレンチ：竪穴住居プランをほぼ確認。住居内埋土は、いずれも木灰・木炭を含む２層から成る。午後、床面および柱穴4基確認。柱穴no.1より遠賀川式土器片出土。床面より、須玖式土器片、片刃石斧、敲石、紡錘車、炭化物などを検出。住居外では、Ｑ区より鉄片、OP区より漢式土器片出土。

第３トレンチ：Ａ～Ｈ区掘り下げ。表土以下に土器片が含まれ、Ｇ区地表下90cmの褐色土層より石斧出土。Ｆ区より銅鏃出土。

第４トレンチ：Ａ～Ｅ区約40cm掘り下げ。表土層、黒褐色土層に土器片が含まれる。表面付近にて鉄製品？採集。

８月３日　快晴

参加者：水野、森、金関丈夫、金関恕、藤田、岡崎、高橋、Elligiers、山田、楢崎、高山、浦田、佐藤、後藤、吉田（毎日記者）、ほか学生・作業員など22名

第１トレンチ：平面、断面実測。Ｆ区より瑪瑙片出土。

第２トレンチ：竪穴住居床面清掃、壁面検出作業。柱穴4基検出。E’・E”区北側では側壁検出できず。砥石、炭化物多数出土。

第３トレンチ：側壁を整え、1.1～1.2mまで掘り下げ。Ｅ区にて銅鏃出土。

第４トレンチ：Ｅ区より拡張するＦ・Ｇ区を設定。砥石、石鏃、抉入石斧、石斧出土。

楢崎、金関恕による地形測量（縮尺1/500）開始。（８月９日まで）

８月４日　晴

参加者：水野、金関丈夫、有光、森、高橋、藤田、楢崎、金関恕、佐藤、岡崎、石丸、鎌木、ほか学生・作業員など28名

第２トレンチ：竪穴住居の外周（Ｇ・Ｉ区）にて柱穴２基、石斧検出。E’・E”区の北壁は耕作で削平された可能性。午後、実測、土器取り上げ。

第３トレンチ：Ｃ区より水晶、土器蓋、Ｅ・Ｇ区より漢式土器、石包丁出土。

第４トレンチ：Ｆ・Ｇ区と同方向へＨ・Ｉ区を設定。Ａ～Ｅ区について1.1mまで掘り下げ。Ｆ区・Ｇ区（1/3）３を60cm、Ｇ区（2/3）・Ｈ区を40cm掘り下げ。Ｂ区より石鏃出土。

８月５日　晴

参加者：水野、金関丈夫、有光、森、高橋、藤田、岡崎、楢崎、金関恕、佐藤、石丸、鎌木、ほか学生・作業員など26名

第２トレンチ：竪穴住居床面清掃。柱穴４基、炉跡？の検出。第２柱穴より獣骨、第７柱穴より銅鏃出土。住居外の、Ｓ・Ｔ・Ｕ区を粘土層基盤まで掘り下げ。基盤に接するように遠賀川式壷肩部（重弧文）出土。その上に須玖式を含む黒色有機土層が形成される。粘土層で複数の柱穴を検出。

第３トレンチ：黒色土層掘り下げ完了。柱穴複数を検出、11個まで埋土除去。Ｅ区より石包丁、Ｆ

区より鉄器出土。

第４トレンチ：C・D・E 区について黒土層（須玖式単純層）まで掘り下げ。E 区より石鎌、F 区より鉄器出土。

第５トレンチ：甕棺遺構。口縁部を下に向けた須玖式甕を単独検出。上半部（底部）は破損、内部に落下し、甕棺内部の土は粘質の少ない黄褐色を呈する。甕取り上げ後、地山を掘り込んだ、直径70cm、深さ70cm の埋置用竪穴土坑を検出。赤褐色に焼けた土壙底部の上に、順に黄褐色粘土、青色粘土を敷いて甕棺を埋置。竪穴および敷き粘土は南に傾けて形成されており、南端の甕口縁部は地山にほぼ接するが、北側は12cm 高く据えられていた。なお、土坑東側1/4にて、後代の火葬人骨および副葬小皿２枚を検出した（金関丈夫、有光教一）。

８月６日　快晴

参加者：調査者未記入、ほか学生・作業員など38名

第２トレンチ：S・T・U 区および D・E 区に接する拡張区 D1・D2・D3・E1・E2・E3区を設定。拡張区より凹石4点検出。3点は同一面上。拡張区は中央付近に土器片が密集するほか、鉄片、漢式土器片、石斧？を出土。竪穴住居に関して、E 区の柱穴位置をやや南側に変更（37×32cm、深さ35cm）。柱穴より鉄片、土器片、石包丁を得た。P・Q 区より石剣片出土。

第３トレンチ：側壁を整える中で、柱穴1、2基を検出。

第４トレンチ：A 区に接する S・T・U 区を設定。S・T・U 区を掘り下げ。表土を含む40-50cm に殆ど土器は無いが、砥石を出土。A ～ E 区を清掃、D・E 区実測。F ～ I 区で黒土層に達する。G 区で鉄片、H 区で鉄片、青銅片検出。

森、金関、有光、Elligiers、岡崎により山口コレクションの調査を行う。

８月７日　晴

参加者：水野、金関丈夫、有光、森、高橋、岡崎、楢崎、金関恕、佐藤、鎌木、藤田、林徳衛ほか学生・作業員など15名

第２トレンチ：竪穴住居柱穴実測（岡崎）。D1～ D3、E1～ E3区を掘り下げ、黒色有機土層（須玖式以降の型式の土器を含む）から粘土層に達する。D1区のピット内にて青銅鏃（破砕）、D2区より銅釧、E2区より磨製石斧検出。

第３トレンチ：掘り下げ後、床面清掃。黒色土層で柱穴を新たに検出（計14基）。B 区柱穴壁よりガラス丸玉を検出。

第４トレンチ：S・T・U 区を掘り下げ。A・B 区清掃。D・E 区の３つの土器群取り上げ。G・H 区掘り下げ。I 区より土器群２つ検出。うち一つでは漢式土器片、須玖式甕片、高三潴式甕を確認。

８月８日　快晴

参加者：水野、金関丈夫、森、有光、岡崎、楢崎、金関恕、鎌木、佐藤、藤田、高橋、ほか作業員6名

第２トレンチ：D2・D3・E2・E3区の黒色土層を剥ぎ、粘土有機層に到る。D2・D3区にて約2.0m ×1.0m の窪み、E3区で方形の焼土跡検出。D1・E1区より円形柱穴計13基発見。D2区より貝製玉発見。

第３トレンチ：実測終了（藤田）。

８月９日　快晴

参加者：水野、有光、岡崎、楢崎、金関丈夫、藤田、高橋、金関恕、森、鎌木、佐藤、Elligiers、赤司、ほか学生・作業員など22名

第２トレンチ：D2・D3・E2・E3区付近の粘土有機層を掘り下げ、粘土層検出。D2・D3区に窪み

があり、石斧、須玖式土器片が出土。Ｐ区にて柱穴確認。

第３トレンチ：午後より埋め戻し開始。

第４トレンチ：Ｔ・Ｕ区を掘り下げ。Ｕ区より骨製品片出土。Ｓ・Ａ区土器検出状況実測。Ｆ・Ｇ・Ｈ・Ｉ区の土器片の取り上げ。Ｆ区より石包丁？出土。

甕棺下畑東面より漢式土器（図50-142）出土。

８月10日　晴

参加者：水野、金関丈夫、有光、森、高橋、岡崎、楢崎、金関恕、鎌木、Elligiers、藤田、ほか学生・作業員など14名（図版６－２）

第２トレンチ：D2・D3区掘り下げ。西面、南面の断面図作成。黒色土層の下の赤褐色粘土層を切り込む柱穴を確認。Ａ～Ｒ区までの断面図作成。Ｍ・Ｐ区にてピット、柱穴、Ｎ区にて溝状遺構を発見。西側断面では、表土、黒褐色土層、赤褐色粘土層、黄褐色粘土層の順に確認でき、柱穴は赤褐色粘土層を切り込む。東側断面では赤褐色粘土層は明瞭ではない。

第４トレンチ：Ａ・Ｓ区の土器取り上げ。Ｓ区より漢式土器片出土。Ｔ・Ｕ区を掘り下げ。Ｔ区より石鏃、Ｕ区より鉄片出土。Ｅ～Ｉ区清掃。Ｉ区西壁下より壷1点検出、Ｅ・Ｆ区西壁に沿って柱穴3基（第一～三号）、Ｅ区北側に柱穴１基（第四号）を検出。第一号柱穴にて土製紡錘車、土器片、第二号柱穴より土器片を検出。

８月11日　快晴

参加者：水野、岡崎、高橋、楢崎、鎌木、藤田、金関恕、ほか学生・作業員など15名。樋口、林、川端が古墳調査を終えて合流。

第１・第３トレンチ：埋め戻し完了。

第２トレンチ：Ｋ区土器分布状態実測、取り上げ。埋め戻し1/3程度完了。

第４トレンチ：Ａ～Ｅ、Ｓ～Ｕ区において、黄褐色土層（基盤）まで掘り下げ。Ｓ区よりＵ区東端中央付近より、炭化籾の充満したピットを検出。南側壁面の断面図作成。（鍵状に延ばしたトレンチ床面に柱穴状ピット4基を確認。）

８月12日　快晴

各トレンチの埋め戻し

第４トレンチ：Ｂ区にて黒土層、間層、黄褐色土層の土器の状態を検出。Ｕ区の黄褐色土層に切り込むピットを検出。多量の木材、籾殻を取り上げ。

８月13日　快晴

調査員：水野、樋口、岡崎、金関恕、林、川端、楢崎、藤田、高橋、鎌木

11時、大衆丸に乗船。遺物（27箱）とともに郷ノ浦出発。15時博多着。一行寺泊。

８月14　快晴・15日　晴

各調査員、各地へ出発。

（ｃ）1954年（昭和29年）

７月15日　雨

水野清一、高橋猪之介、藤田国雄、岡崎敬が京都を立ち（8時30分）、博多に到着（19時10分）。森、波多江、裏辻、毎日新聞記者吉田らが出迎え。裏辻宅にて、金関、渡辺を交えて打ち合わせ。

７月16日　晴

水野清一、高橋猪之介、岡崎敬、藤田国雄

水野は長崎県庁と打ち合わせのため、8時30分博多発。その他は８時博多港発、郷ノ浦12時30分到着。山口麻太郎、目良、後藤マラソン翁が出迎え、壱岐交通本社へ赴く。壱岐高校、国警、教育庁、支庁にて挨拶および車・機材借用。17時、壱岐交通本社を出発、安国寺到着。

７月17日　雨のち晴

高橋、藤田、岡崎、金関恕、林

午前中、田河町役場、石田町役場に挨拶。午後、金関到着。林の案内で遺跡踏査。

７月18日　雨のち晴

水野、藤田、岡崎、高橋

午前中、降雨のため休養。午後、水野が郷ノ浦公民館（山口麻太郎）、支庁長（谷口傳）、教育庁出張所を訪問。高橋は会計事務を、藤田、岡崎、金関は遺跡踏査および発掘地の選定を行った。昭和28年甕棺出土地の北の畑にて漢式土器片を採集し、この畑を一応の発掘地として選定した。2×16m のトレンチを傾斜沿い（東西方向）に通すことにした。数か所の湧水点が見いだされ、これと弥生時代水田の開発の関係、水田開発の状態、順序の復元を問題として認識する。

７月19日

記録なし

７月20日　快晴

水野、高橋、藤田、金関、岡崎、佐藤英美、ほか作業員・学生13名

吉富藤作所有の畑に東西長20m ×幅２m のトレンチ（第１トレンチ）を設定、西よりＡ・Ｂ・Ｃ…区と名付ける。17時まで、Ａ～Ｇ区まで表土掘り下げ。Ａ区では、表土層（11～19cm）、赤褐色土層（15cm）、黒褐色土層を確認し、黒褐色土層には比較的細かい土器片が含まれる。Ｄ区表土より砥石が出土。土錘を表面採集する。

第一地点東方の台地切通しにピットがあり、精査の必要を認識する。

７月21日　曇時々小雨

水野、高橋、岡崎、金関、佐藤、藤田、ほか作業員・学生13名

Ａ～Ｅ区にて黒褐色土層の掘り下げ。地表下50～60cm にて比較的大きな土器片（大部分は須玖式）、高坏、壷、カマド石、石斧、砥石を検出。一部取り上げ。Ｅ区の土器片中に赤色格子文土器片（漢式か？）あり。Ｈ・Ｉ区の地表下65～76cm にて土器包含層に達する。

７月22日　曇時々小雨

水野、高橋、岡崎、藤田、佐藤、金関、ほか作業員・学生11名

Ａ～Ｆ区にて黒褐色土層の掘り下げ。Ｂ区より磨製石器、Ｃ区より漢式土器片（表面に敲き格子目文）、Ｅ・Ｆ区境界でクド石出土。Ａ区の一部をさらに掘り下げると、黒褐色土層（厚さ65cm）の下に黄褐色土層があり、ここでは土器片は少ない。午後、Ａ・Ｂ区境界で大石が出土。Ａ区北寄りで松材の木炭、Ａ・Ｂ区境界付近より稲籾出土。

Ｇ～Ｏ区の表土剥ぎ。Ｈ区の一部を深く掘り下げ。

水野および高校生２名により同年４月20日出土の甕棺（P12、P13）を洗浄。

７月23日　快晴

水野、高橋、藤田、金関、佐藤、岡崎、Elligiers、（山口麻太郎、林徳衛、後藤綱賀、後藤カッパ）ほか作業員・学生14名

Ａ～Ｅ区では昨日の検出面の精査。Ｇ区にて表土（～－50cm）、黒褐色土層、黄褐色土層（～－130cm）、黄色粘土土層の層位を確認。完形壷（黄褐色土層）、鉄鏃出土（破砕）出土。Ｌ区南側にて

甕棺および漢式土器片を検出し、南側へＬ区を拡張（L' 区）。

７月24日　晴時々小雨

水野、高橋、藤田、金関、岡崎、Elligiers、原口（曽野寿彦、増田精一、鴇田忠正、壱岐高校・八幡中央高校教諭数名）ほか作業員７名、学生（十数名）。

Ａ～Ｅ区、Ｌ区（甕棺）の実測。Ｌ区の甕棺上甕は土器下腹部。粘土などを用いて覆った痕跡はない。付近に須玖式土器口縁部、ほぼ完形の高坏。甕棺は堆積した須玖式土器層に掘り込まれたものの可能性。

７月25日　晴時々俄雨

水野、金関丈夫、高橋、岡崎、金関、原口、佐藤、Elligiers、藤田、ほか作業員、学生（８名）。

Ａ～Ｅ区の平面図に高さ記入後、土器取り上げ。全体を掘り下げ。Ｌ区の甕棺実測後、取り上げ。

Ｆ～Ｉ区にて、第１・第２灰層、第１・第２焼土層を確認。第1灰層（厚さ１～３cm）はＦ～Ｉ区の殆ど全面に広がり、その直下に第2焼土層が続く。第2灰層はＦ・Ｇ区で明瞭（厚さ約２cm）、Ｈ・Ｉ区では薄くなる。第２焼土層はＦ・Ｇ区にて極めて明瞭（厚さ約５cm）である。

７月26日　夜来豪雨、晴

水野、岡崎、原口、佐藤、金関、藤田、金関、高橋、Elligiers、ほか作業員（５名）。

第１トレンチ：夜来の豪雨のため水たまり多く、本日の作業中止。Ｋ区にて石錘、Ｂ区にて漢式土器を実測取り上げ。

第１トレンチの東側に第２トレンチを設定（Ａ・Ｂ・Ｃ区）、掘り下げ。耕作土（黄褐色土層、20cm）、黄色土層（30cm）、黒褐色土層（40～60cm）、黄色砂混じり層（地山？）の順に確認。黒褐色土層より須玖式を含む土器出土。Ｂ区にて短脚の高坏出土。

７月27日　晴

水野、金関、高橋、藤田、金関、佐藤、原口、岡崎、Elligiers、ほか作業員、学生（15名）。

第１トレンチ：Ｂ区にて灰層検出。Ｇ区にて高坏、器台、Ｋ区にて凹石、Ｍ区にて石錘出土。Ｌ区で検出した甕棺について、黄褐色土層（須玖式単純層）成立後、これを掘り下げて埋置したものと認識。

第２トレンチにて柱穴（計8基）を検出。

第１トレンチの西側に第３トレンチを設定。表土掘り下げるも、包含層に達せず。

７月28日

水野、金関、高橋、藤田、金関、佐藤、原口、岡崎、Elligiers、ほか作業員など（13名）。

第１トレンチ：Ａ・Ｂ区の実測、撮影、遺物取り上げ。土器は木炭層中より出土。Ｃ～Ｆ区を掘り下げ、須玖式土器層に達する。Ｄ区のピットよりイネ籾出土。Ｈ・Ｉ・Ｋ区にて柱穴（計６基）を検出。

第２トレンチ：拡張区（Ｅ～Ｇ区およびＯ・Ｐ区）設定。Ｏ・Ｐ区およびＦ・Ｇ区にて土器群検出。

第３トレンチ：Ａ～Ｃ区の掘り下げ。地表下1.0m にて須玖式土器片を含む黒褐色土層に達する。

７月29日　雨

水野、金関、高橋、藤田、金関、佐藤、原口、岡崎、ほか作業員、学生（８名）。水野浩一、夜来訪。

午前９時、第２トレンチにて作業開始するも、雨のため中止。今回および本年春出土の甕棺洗浄、接合作業。

７月30日　豪雨

水野、金関、高橋、藤田、金関、佐藤、原口、岡崎。

作業中止。夜、田河村深江青年学級のため、水野・金関丈夫が幻燈を上映。

７月31日　曇のち雨

水野、金関、高橋、藤田、金関、佐藤、原口、岡崎、および赤司記者（朝日新聞）

高橋は支庁、食糧営団に挨拶。藤田、岡崎、原口は公民館にて原の辻出土土器実測。佐藤・金関恕は海筒城浜を含めた海岸部踏査。各地点で貝種の調査を行う。金関丈夫は厳原にて夜講演を行った。

８月１日　晴

水野、金関、高橋、藤田、金関、佐藤、原口、岡崎、および赤司記者

水野、赤司が現場確認。第１トレンチの壁崩落、第２トレンチの浸水を報告。

他の調査員は、公民館にて遺物調査。

８月２日　晴、３時過ぎ一時雨および夕刻より雨

水野、金関、藤田、高橋、佐藤、金関、原口、岡崎、赤司記者、ほか作業員、学生など（21名）。

第１トレンチ：午前、Ｂ区第一層土器原位置実測、Ｅ・Ｆ区土器の平面実測。午後、Ａ～Ｅ区の掘り下げ。Ｄ区南側より須玖式壷、高坏が出土。Ａ･Ｄ区の土器群について撮影（カラーフィルム使用）。トレンチ南側断面（Ｇ・Ｈ・Ｉ区）の撮影。Ａ～Ｄ区の上層土器が厚い木炭層中にあることを確認、実測。

第２トレンチ：排水後、Ｄ・Ｈ・Ｑ～Ｕ区を拡張。Ａ～Ｃ区以外は地盤層に達せず。黒色土層中の土器は殆どが須玖式であることを確認。

第３トレンチ：排水後、乾燥待ち。

８月３日　晴

水野、金関、高橋、藤田、岡崎、金関、原口、佐藤。森貞次郎？・杉原荘介午後到着。ほか作業員など（15名）。

第１トレンチ：Ａ～Ｇ区の下層（粘土層、須玖式土器単純層）を掘り下げ、大体地山に達する。Ｆ・Ｇ・Ｈ区の崩落土上げる。Ｄ区にて須玖式丹塗り壷、高坏出土。実測後取り上げ。

第２トレンチ：Ａ～Ｃ区、Ｒ・Ｓ・Ｕ区にて柱穴を検出。

８月４日　晴

水野、金関、高橋、岡崎、藤田、森、金関、原口、佐藤。ほか作業員など（15名）。杉原はカラカミ遺跡、鬼の窟古墳見学。

第１トレンチ：Ａ～Ｆ区下層検出後、実測。Ａ・Ｂ区取り上げ。Ｄ区丹塗り壷附近撮影。

第２トレンチ：Ｄ区にて漢式土器出土。拡張区設定（Ｉ～Ｎ区およびＷ～Ｚ区）。

８月５日　晴

水野、森、高橋、藤田、岡崎、金関恕、原口、佐藤、杉原。ほか作業員（11名）。金関丈夫は離島。

第１トレンチ：断面図作成。断面下半部、Ｃ～Ｅ区下層撮影後、遺物取り上げ。Ｇ・Ｈ区下層実測。Ａ区より8m間隔で地山までボーリング調査（約１m）。

第２トレンチ：Ｅ～Ｈ区、Ｏ区にて溝を検出、掘り下げ。

原の辻全景撮影。

８月６日　快晴

水野、高橋、藤田、岡崎、金関、佐藤、原口、水野浩一。ほか作業員など（11名）。杉原、森は離島。鴇田校長夫妻、植山俊一郎来訪。

第１トレンチ：各区実測。第２トレンチ側のトレンチ端で溝を検出。第２トレンチに接続するものである見通し。

第２トレンチ：Ｆ・Ｇ・Ｈ区（溝）およびＤ・Ｕ区にて作業。溝が僅かに曲がりつつも直進する状況を確認（勾配は約4度）。Ｕ区にて石組群検出。さらに、新規拡張区を設定。

金関、原口により地形測量開始。

８月７日　快晴

水野、高橋、藤田、岡崎、金関、原口、佐藤、水野。ほか作業員（９名）。大塚初重、山口麻太郎、滝川来訪。

第１トレンチ：断面図の修正、地山落ち込みの追求。各土層の土壌採取。

第２トレンチ：拡張区掘り下げ。地盤に達せず。

８月８日　快晴

岡崎、金関、大塚、水野。ほか作業員（11名）。

第２トレンチ：拡張区掘り下げ。柱穴および底面を検出。太形蛤刃石斧出土。

地形測量完了。

８月９日　快晴

金関、岡崎。ほか作業員（12名）。

第１トレンチ：Ｈ・Ｌ～Ｎ区掘り下げ、第２トレンチの溝との接続関係がないことを確認。

第２トレンチ：拡張区で炉址を検出。炉底に炭化物、焼土を確認。

８月10日　快晴

金関、岡崎。ほか作業員、学生（11名）。

第１トレンチ：Ａ・Ｈ区掘り下げ、Ｈ区にて溝底部を確認。平面・断面実測。

第２トレンチ：撮影、平面・断面実測。計21基の柱穴を確認。

第３トレンチ：Ｂ区掘り下げ。黒土層より須玖式土器出土。実測。

８月11日　快晴

金関、岡崎。ほか作業員（９名）。後藤綱賀来訪。

第１トレンチ：埋め戻し半ば終了。

住居址（第２トレンチの炉含めた部分か？）撮影。

８月12日　快晴

金関、岡崎。

盆休み・行事のため、作業を休み、支庁、公民館、高等学校へ挨拶。

８月13日　快晴

第１トレンチの埋め戻し。

８月14日　快晴

第一、第３トレンチの埋め戻し終了。福岡より見学団来訪。

８月15日　快晴

第２トレンチの埋め戻し。武生水に行き、出土品を発送。

８月16日

第２トレンチの埋め戻し。武生水に行き、諸費用の支払い。

８月17日

田河町農協の車両で勝本港に行くが、台風の為欠航。湯ノ本泊。

８月18日

終日荒天。湯ノ本泊。

８月19日
　午前10時、大衆丸にて出航。午後２時半、博多到着。裏辻憲道宅に寄り、荷物を発送。赤司光生と面会。

（ｄ）1961年（昭和36年）
７月19日
　荷物受け取りの為、秋山進午が先に福岡入り。岡崎敬、小田富士雄と打ち合わせ。深見清、西谷正は京都を夜出発。
７月20日　快晴
　荷物受け取りの後、秋山、岡崎、深見、西谷で８時30分博多港発、11時50分芦辺港入港。山口麻太郎夫妻、先着の潮見浩が出迎え。安国寺到着。岡崎、潮見は芦辺町役場へ挨拶、買い物。５時過ぎより全員で原の辻遺跡の発掘地選定に出かける。昭和26年発掘地の西側の高い部分が削平され、一面に須玖式土器の散布を確認。この付近（Ａ区）を発掘予定地とした。また、Ａ区と昭和28年発掘地の間で、須玖式土器散布地点（Ｂ区）、漢式土器片採集地点（Ｃ区）を確認した。以上のほかに、黒曜石２点を採集した。
７月21日　快晴
　岡崎、藤田、潮見、深見、西谷、秋山。
　９時40分のバスにて郷ノ浦へ。壱岐日報社（山口麻太郎）を訪問、山口も同行し、壱岐支庁へ挨拶。土木課より機材を借用。藤田国雄が昼に郷ノ浦港着、共に安国寺へ。河田中学校教頭（末田吉勝）が来訪、学生の応援を依頼。芦辺町役場総務課長（山口定徳）来訪、機材の借用を依頼。後藤綱賀（マラソン翁）来訪。Ａ区の地主（西川豊）への交渉を山口定徳に依頼。
７月22日　晴、午後より曇
　岡崎、藤田、潮見、深見、西谷、秋山。作業員１名。
　午前８時30分、現地着。９時過ぎに山口定徳が地主の了承を伝える。発掘地点設定、杭打ちを行った。昭和26年発掘地点の南方と西方にＬ字形トレンチ（南北16m、東西18m、各Ａ～Ｐ区）を設定。10時前、地主（西川豊）から発掘了承受ける。
　午後、発掘開始。表面採集で土器（須玖式）を採集し、Ａ～Ｉ区で表面全体を掘り下げ。表土下10cm余で黒色包含層に達する。夕方５時までに約30cm掘り下げ、作業終了。包含層Ａ区より敲石、Ｃ区より石斧？、Ｇ区より、石剣？片、石斧片、凹石を発見。Ａ～Ｆ区にて南北に連続する灰層を確認し、層中より炭化植物採集。Ｆ・Ｇ区の土器片出土量がやや多い。
７月23日　晴、夕立
　三木、藤田、岡崎、潮見、深見、西谷、秋山。作業員１名、学生５名。
　午前８時30分作業開始。昨日に続き、Ａ～Ｇ区の掘り下げ。10時頃、Ｇ区、続いてＦ区に丹塗高坏、甕などが次々と現れてくる。地表から30～40cmで、昨日の大き目の破片もこの一群と認識。須玖式壷、甕２点、敲石２点が平面上に並んで出現。元の生活面の可能性を示唆。清掃、写真撮影。夕方より実測するも、夕立の為半分にて終了。
　Ａ～Ｅ区は深く掘り下げるが、遺物が出ず、Ｃ区をさらに掘り下げ、黒色包含層下の粘土層に達した。Ｅ区の溝状堀込みを確認。昭和26年の発掘痕跡と認識。
　Ｈ～Ｊ区を午後より掘り下げ、Ｊ区表土より銅鏃出土。土器は極めて少ない。Ｊ区をさらに掘り下げ、粘土層に達する。鉄製品（鉄斧？）、獣歯出土。

７月24日　晴、夕立

三木、藤田、岡崎、潮見、深見、西谷、秋山。作業員２名、学生１名。

午前８時30分作業開始。Ｆ～Ｇ区の実測（平面、断面）の続きを行い、完成。午後、取り上げ後、床面に柱穴を探すが不明。土器が少々出土。宿舎に帰って後、土器接合。

Ａ～Ｅ区では２部分のみ掘り下げ、地山を検出。炭化木片を検出するも、昭和26年度発掘時の混入の可能性。Ａ～Ｈ区の断面図を作成。Ａ～Ｅ区は終了。

Ｍ区の北に拡張区（Ｑ～Ｗ区）を設定。Ｍ・Ｑ・Ｒ区を掘り下げる。

７月25日　曇、時々俄雨

三木、藤田、岡崎、潮見、深見、西谷、秋山。作業員３名、学生２名。

午前８時30分作業開始。Ｆ・Ｇ区を掘り下げるが、遺物少なく、地山検出。地山面は西から東へ傾斜。

拡張区Ｑ～Ｔ区の掘り下げ。Ｏ・Ｒ・Ｓ区は、遺物検出面（下層）まで発掘。Ｒ・Ｓ区では昭和26年のトレンチを確認。Ｓ区（原文Ｔ区、翌日の記述で訂正）の東壁、上層（黒色土層）中に完形の丹塗り壷確認。

Ｎ区にて、地表下約１ｍの黒色包含土層（上層）でうつ伏せの甕（原の辻上層式）を検出。同層でガラス小玉２点出土。本土層に溝状の落ち込みがあることを確認。Ｍ区では、地表下160cmで下層土器（須玖式）の甕２点が出土。Ｌ区は半分掘り下げ、鉄器（表土下50cm）、獣骨を検出し、下層に達する。Ｑ区は下層に達し、甕？の底部を発見。

これらの他、石剣２点（Ｌ・Ｒ区）、石包丁（Ｒ区上層）、抉入石斧・凹石（Ｓ区上層）が出土。

７月26日　曇のち雨

三木、藤田、岡崎、潮見、深見、西谷、秋山。作業員４名、学生２名。

午前８時30分作業開始。Ｌ・Ｍ・Ｑ区の下層土器の検出作業。Ｍ・Ｑ区より甕３個体検出。Ｎ区にて、昨日のうつ伏せの甕（上層）の下から丹塗り土器検出。これらは甕棺葬の可能性。

昨日確認したＳ区上層の丹塗り壷附近より、ガラス玉１点出土。同区にて石包丁片１点を採集。

Ｔ区下層にて環状の赤粘土層を確認。

Ｏ・Ｐ区にて掘り下げを開始。Ｐ区表面で銅鏃１点を採集。

Ｗ区では原の辻上層土器多数を、東西列状で発見。東へ僅かに傾斜を確認。Ｗ区に接するＸ・Ｙ区を設定、表土を剥ぎ、黒色土層（上層）を掘り下げる。

７月27日　晴

三木、藤田、岡崎、潮見、深見、西谷、秋山。作業員２名、学生２名、手伝い９名。

午前８時作業開始。Ｑ～Ｔ区下層掘り下げ。Ｑ区中央にて甕および底部片の西方から石剣片？を発見。Ｒ区でも土器片検出。Ｓ区中央に大きい自然石があり、その東方より二条沈線文を持つ遠賀川式土器を、西方からは鉄器（鎌あるいは鉄素材？）を検出（下層（須玖式）に伴う）。Ｔ区では直立した底部出土。

Ｎ区のうつ伏せの甕を甕棺と決定。そのすぐ東部でガラス玉１点発見。Ｎ区東半・Ｏ・Ｐ区では上層土器を検出できず、掘り下げ続行。Ｏ区にて砥石発見。

Ｗ区の清掃、写真撮影。拡張区Ｘ・Ｙ区を掘り下げ、Ｘ区にて獣歯、植物、多数の上層土器、完形の器台２点が出土。Ｗ・Ｘ区境界でガラス玉２点（１点は半分のみで、灰色）、碧玉製管玉片が出土。Ｗ区西北隅に石囲い確認。

昼食時の表面採集にて、石斧、鉄器片、鉄鋤先片、漢式土器片を採集。

７月28日　快晴　風少し

三木、藤田、岡崎、潮見、深見、西谷、秋山。作業員３名、学生３名、手伝い１名。

午前８時作業開始。

O・P 区を掘り下げ、下層に達する。O 区中央北寄りに甕口縁部（上層土器？）、その東方に骨角器、西方で獣骨出土（下層）。

V・X 区に接する拡張区（Z 区）を設定。Z 区上層より壷２点、甕１点、高坏１点検出。同層または埋土中より漢式土器片発見。

S 区の東側に拡張区（S' 区）設定、上層より器台３点を発見。S 区付近で上層が窪んでおり、一面に灰が付着することを確認。

T・U 区では、焼土層を検出（昨日）、清掃。中窪みの施設を検出。

他、1953年発掘地にて土製投弾採集。

藤田、岡崎は勝本町天ヶ原の銅矛出土地、カラカミ遺跡、郷ノの壱岐郷土館を見学。

７月29日　曇

三木、藤田、岡崎、潮見、小田、深見、西谷、鶴久、秋山。作業員４名、学生１名。

午前８時作業開始。三木、秋山、鶴久は地形測量調査。1/500にて新たに測量。

T・U 区における焼土層を追求。S' 区上層より、大甕、凹石、砥石など発見、焼石が散乱し、炉址の可能性。R 区下層より焼米、小麦？を発見。

O・P 区は地山まで掘り下げ、P 区下層にて猪右上顎骨出土。同区では漢式土器片も出土。

Y 区東端で地山検出。清掃の上、W ～ Z 区土器撮影。X 区でガラス玉１点出土。

午後、M・N 区、W ～ Z 区の実測。

藤田は、第２トレンチの選定と交渉を行った。

７月30日　曇　時々雨

水野、三木、藤田、高橋、岡崎、仙波、潮見、深見、西谷、秋山。作業員４名。

水野清一、高橋猪之介が午後３時到着。

午前８時10分作業開始。（第１）トレンチ全体を1/50にて平板測量。L・M・N・Q・R 区および、V ～ Z 区の平面図作製。U'・V' 区は下層まで掘り下げるも、昭和26年発掘部と重複しており、出土品は少ない。

昭和28年銅剣出土地に隣接する丘の２か所に、第２トレンチ（２×16m、A ～ H 区）、第３トレンチ（２×６m、A ～ C 区）を設定。第２トレンチ A・H 区より発掘開始。表面には須玖式土器の破片が僅かに散布。A 区の黒褐色土層の底面で、黄褐色土層に食い込んだ土器を検出。H 区では黄褐色土層に食い込んだ柱穴？を検出。

他、第１トレンチより動物骨、同トレンチ A ～ H 区埋土中より土製投弾発見。土製紡錘車、砥石、石鎌を表面採集。

７月31日　曇　時々晴　風やや強し

水野、三木、高橋、藤田、潮見、深見、西谷、秋山。作業員４名、学生１名、手伝い２名。

岡崎、仙波は帰福。水野は石田村へ挨拶、武生水公民館へ向かう。

午前８時30分作業開始。第１トレンチ L・M・N・Q・R 区の平面図作製を継続、N・M 区は完成。甕棺（内部より歯出土）、下層土器の取り上げ完了。W ～ Z 区の断面図完成。午後、上層土器の取り上げを行うが、土硬く、７点のみ取り上げ完了。S' 区上層の平面図の作製。

第２トレンチ：A・E・H 区をさらに掘り下げ、地山までの土層変化を確認。表土（15cm）、黒褐

色土層（30cm）、黄褐色土層（60－70cm）、岩盤の順で確認。A 区で甕２点および柱穴を確認。

第３トレンチ：A ～ C 区の掘り下げ。表土（17cm）の下の黒褐色土層中に、若干の土器片と近世の磁器片を認め、本層の攪乱を考える。黒褐色土層は、ほぼ70cm で黄褐色土層に達し、この面で平坦にした。

第１トレンチ R 区下層より砥石、N 区上層より敲石、M 区下層、S 区より獣骨出土。

８月１日　曇　時々雨　夜雨　台風近し

水野、高橋、三木、藤田、潮見、深見、西谷、秋山。学生２名、手伝い２名。

午前８時20分作業開始。第１トレンチ W・X 区の土器取り上げ、鉄製釣針１点、須玖甕（上下層）を発見しつつ、夕刻完了。本区付近で上下層の接近を確認。S' 区上層の平面図、断面図を完成。新たに東西断面図作製のため、K・L 区北壁附近を掘り下げ。夕方、S' 区上層の土器取り上げ開始。M ～ X 区東壁断面図作製。

第１トレンチ X 区に接して、第４トレンチ（A ～ D 区）を設定、掘り下げ。状況により北方に拡張予定。

第３トレンチ：A ～ C 区を掘り下げ。本トレンチの黒褐色土層の厚さ（70cm）および、第２トレンチとの層序の共通性を確認。黒褐色土層下面には土器なし。午後、平面図、断面図を作成。

他に、第１トレンチでは鉄製釣針（Y 区上層）、鹿角ナイフ（W 区下層）、獣骨、凹石２点、敲石（以上 S' 区）、第２トレンチでは石鏃が出土した。

８月２日　曇　のち豪雨　台風

水野、三木、高橋、藤田、潮見、深見、西谷、秋山。作業員10名、学生２名、手伝い１名。

午前８時20分作業開始。第1トレンチ N・Q・R 区の断面図準備。W 区で昨日検出した須玖甕の実測図作製。S' 区にて敲石、凹石を発見。

第２、３トレンチ：埋め戻し開始。

第４トレンチ：A ～ D 区の掘り下げ開始。A 区にて黒曜石鏃を発見。D 区の表土下30cm 程度で上層土器が出現。W 区へ急に傾斜し、W 区では上層が下層に近接していることを確認。10時頃より台風12号のため雨激しく、作業を中止し、終日土器洗いを行う。

８月３日　雨　のち晴

水野、三木、高橋、藤田、潮見、深見、西谷、秋山。作業員６名、学生２名、手伝い６名。

台風の雨が残り、現場の作業は不可能。土器洗い（午後２時頃完了）、出土品実測を行う。土器洗い後、快晴となり現場へ赴く。

第２、第３トレンチ：埋め戻し。第２トレンチ西端北方について、検出された土器を基に拡張する。甕２点の並びを確認。地山を掘り込んで、須玖式甕を置いた状況を確認。

第１トレンチと併行して、その東隣りに第５トレンチを設定。約１尺掘り下げる。

他に、第１トレンチ H 区排土中より獣歯１点、P 区排土中より漢式土器片第４トレンチ A 区排土中より銅鏃１点、B 区排土中よりガラス（水晶？）玉１点を発見。

８月４日

水野、高橋、三木、藤田、潮見、深見、西谷、秋山。作業員11名、学生２名、手伝い（人数不明）。

午前８時作業開始。第１トレンチ（南・東側）：H ～ P 区の断面図作成のため、地山までの掘り下げと壁面検出。S' 上層土器の取り上げを完了、黒褐色土下層を掘り下げる。須玖式甕、獣骨２点などを検出。撮影後、実測開始。S' 区では焼土層の上に黄褐色土層（須玖式）が被さること確認。

第１（北側）・第４トレンチ：第４トレンチを清掃後、D 区のみで土器検出。表土下約50cm にて、

上下層の土器がほぼ重なり合って、第１トレンチＷ・Ｘ区へ落ちていることを確認。第１トレンチＷ区北壁中央の須玖甕（下層）ほかの取り上げ、断面図を作成、完了。Ｙ区北壁に食い込む完形器台1点を発見。Ｗ区上層直下より磨製石剣を発見。

第５トレンチ：Ａ～Ｇ区にて深さ約30cmまでまばらに土器片が出土するが、それ以下の黒褐色土層では土器少ない。Ａ区にて砥石１点検出。

他、第１トレンチＭ区にて砥石、獣骨２点、同Ｖ区にて獣歯、第５トレンチＣ区にて漢式土器片、鉄器、同不明区にて骨２点を発見。

８月５日　雨　のち晴

水野、三木、高橋、藤田、潮見、深見、西谷、秋山。

朝から雨のため作業中止。水野、高橋、藤田は土器整理と地名表作製。三木、潮見、深見、西谷、秋山は郷ノ浦にて郷土館見学。郷ノ浦片原、吉ヶ崎出土品を実測、撮影。一の森稲荷神社（郷ノ浦町東触）の合わせ口甕棺出土地を踏査。

８月６日　晴　時々曇

水野、三木、藤田、高橋、潮見、深見、西谷、秋山。作業員10名、学生２名、手伝い３名。

午前８時20分作業開始。

第１（北側）および第４トレンチ：第４Ｄ区清掃、上下層がほぼ接する状況を確認。本区に接する第1Ｗ・Ｘ区の下層土器検出を行うも、まとまった土器群なし。第１Ａ区と第４Ｃ区一部を断面図のため掘り下げ。第１Ａ区では、上層がなく、下層包含層、黒土層（遺物なし）、黄褐色土層の順に確認。第4Ｃ区では包含層が厚く、上下層の区別がはっきりしないことを確認。第１Ｙ区を掘り下げ、須玖式甕を発見。

第１トレンチ（南側）：Ｉ～Ｐ区の北壁断面図の作製完了。上下層とも西から東に下降し、下層はかなり厚い（100cm）。Ｍ区の下層面、Ｏ区の木炭層など、下層内で細分出来る面を二、三確認。

第１トレンチ（東側）：一昨日（原文は昨日）検出した甕や壷の平面・断面実測。黄褐色土層（須玖式土器を含む）を除去しながら、Ｓ・Ｔ区の焼土面を追求。Ｔ区を中心に、Ｔ'・Ｓ・Ｓ'区に僅かに広がることを確認。前回調査で検出された焼土部を合わせ、住居跡の可能性。焼土層の上に土器片付着。焼土層の下には須玖式土器を含む層を確認。

第５トレンチ：表土以下90cmを掘り下げ。Ｃ区土器群の清掃。黒色層に土器が集中し、その下30～40cmにわたって黒味を増し、須玖式土器片を伴う。土器片はかなり深くまであるが、その下はやや黄色の崩壊土層と認識。Ｂ・Ｄ・Ｅ区（深さ120～130cm）にて土器片を検出。Ｂ区より獣骨、Ｃ区より鉄器、石器、獣骨、Ｄ・Ｅ・Ｆ区より獣骨などの出土があった。

以上の他、軽石（第1Ｏ区下層）、石斧（第１Ｗ区上層）、凹石（第１Ｓ'～Ｔ'区下層）、棒状石器（第１Ｘ区上層）、獣骨（第1Ｏ・Ｓ'下層・Ｓ'下層下）が出土した。

８月７日　晴　時々曇

水野、藤田、三木、高橋、潮見、深見、西谷、秋山。作業員８名、学生２名、手伝い７名。

午前８時20分作業開始。水野は勝本町に青銅矛返却および、串山貝塚見学。

第１（北側）および第４トレンチ：第４Ｄ区の実測完了。第１Ａ・第４Ｃ区を繋ぐ壁面断面図を作製。第１Ｙ区を掘り下げ、古式の須玖式甕を検出。

第１トレンチ（東側）：Ｓ～Ｔ区の焼土の範囲の平面・断面図作製。午後、焼土を立ち割り、下層の掘り下げ。焼土が５～25cmの厚さで、内部に土器や凹石を含むこと確認。焼土下には遠賀川系統を含む多数の土器、獣骨を含む層が存在。

第５トレンチ：Ａ～Ｇ区の掘り下げ（170～200cm）。Ｃ区黒色土層面の土器の平面。断面図作製。ＤからＥ区にかけて、40cmほどの黄褐色土の落ち込みを確認。Ａ区地表下130cmにて猪の下顎骨、Ｂ・Ｃ区にて石剣が出土。

以上の他、獣骨（第１Ｓ～Ｔ、第５Ｂ・Ｃ区）、歯（第５Ｅ区）が出土。

８月８日　晴　時々曇

水野、三木、高橋、藤田、潮見、深見、西谷、秋山。作業員13名、学生２名、手伝い10名。

午前７時50分作業開始。三木は土器荷造り（15箱）。潮見、秋山は国分寺（瓦拓本、略測）、鬼の窟古墳、亀石、カラカミ遺跡などを見学。

第１（北側）および第４トレンチ：第１Ｗ、4D区の土器取り上げ。第1W・Ｘ・Ｙ区にその後出た上下層の土器の平面・断面図作製、土器取り上げ。

第１トレンチ（東側）：Ｓ～Ｕ区の断面図作製完了後、埋め戻し。焼土層下に40cm程の、須玖式土器を含む黄褐色土層があり、その下に遺物を含まない40cm程の黄褐色土層、さらに下に青色粘土質土層（地山）を確認。

第５トレンチ：Ａ～Ｆ区の断面図作製、埋め戻し開始。Ｂ区最下層より、遠賀川式（刻目口縁、焼土下および第1Y区最下層のものと同様。）出土。Ｇ区を拡張（Ｈ区）、清掃、平面図作製。石斧片、鉄鏃、漢式土器、骨器、魚骨、瓢形土器が出土。

以上の他、石器片（第１Ｓ～Ｔ区）、石斧片（第５Ｇ区）、漢式土器片（第４Ｄ区上層）、獣骨（第１Ｗ・Ｘ区上層、Ｔ区焼土下、第４Ｄ区上・下層、第５Ｅ区下層）が出土。

８月９日　晴

水野、三木、藤田、高橋、潮見、深見、西谷、秋山。作業員８名、学生２名、手伝い11名。

午前８時20分作業開始。三木は土器洗いおよび荷造り。藤田、秋山は午前中、原の辻台地全体の分布調査を行う。高橋、西谷、深見は山口麻太郎（壱岐日報）訪問。郷ノ浦の郷土館にて写真撮影、弁天崎踏査。

第１トレンチ：Ｙ区土器取り上げおよび、北壁断面図作製。第１、４トレンチ北側を深堀り。Ｙ区深位の土器が遠賀川式でないことを確認。

第５トレンチ：土器取り上げおよび、南壁断面図作製。

以上の他、凹石（第１Ｘ区下層）、石斧（第1Y区）、漢式土器（第１Ｙ区）、獣骨（第１Ｗ区黒土下層・Ｘ区・Ｙ区下層、第５Ｇ区下層・第５Ｈ区下層）、麦芒？（第１Ｗ区下層）、木炭（第１Ｗ・Ｘ区落ち込み）が出土、分布調査による採集品として、石斧、漢式土器、土錘、鉄器がある。

以上にて現場の作業が全て終了。埋め戻し作業。夜、巡査に発掘届を手渡す。

８月10日　晴

水野、高橋、三木、藤田、潮見、深見、西谷、秋山。作業員６名、学生２名。

現場埋め戻しは作業員により17時に完了。

午前、水野は芦辺町、石田村、壱岐支庁に挨拶。藤田、潮見はカラカミ遺跡見学。高橋、深見、西谷が荷造り。

午後、深見、西谷は国分寺、鬼の窟古墳、カラカミ遺跡を見学。

８月11日　晴

水野、高橋、三木、藤田、潮見、秋山、深見、西谷。

朝、記念撮影の後、潮見は借用機材返却の為先発。本隊は９時30分にタクシーにて郷ノ浦へ。出航までの間に、水野、藤田、潮見、秋山は弁天崎の縄文？遺跡を見学。

大衆丸にて12時出航、午後3時博多着。九大医学部内恵愛園に宿泊。藤田は博多駅にて解散。
８月12・13日、各隊員出発。19日、荷物44個到着。

３．発掘調査の組織

以下に、各発掘調査の組織を掲げる。

（１）第１次調査（1951年７月24日～８月７日）

調査班長　水野清一（京都大学人文科学研究所教授）
調査員　藤田国雄（東京国立博物館技官）
川端（西谷）真治（京都大学大学院生）
金関丈夫（九州大学医学部教授）
高橋猪之介（京都大学文学部文部事務官）
森貞次郎（福岡高等学校教諭）
岡崎敬（福岡中央高校教諭）

（２）第２次調査（1953年７月24日～８月12日）

調査班長　水野清一（京都大学人文科学研究所教授）
調査員　有光教一（京都大学文学部助教授）
樋口隆康（京都大学文学部講師）
岡崎敬（京都大学人文科学研究所助手）
林巳奈夫（京都大学大学院生）
川端（西谷）真治（京都大学大学院生）
楢崎彰一（名古屋大学文学部助手）
藤田国雄（東京国立博物館技官）
金関丈夫（九州大学医学部教授）
森貞次郎（福岡高等学校教諭）
高橋猪之介（京都大学文学部文部事務官）
鴇田忠正（長崎県教育庁社会教育課長）
山口麻太郎（武生水図書館長）
エレギィルス Elligiers（ベルギー UNESCO 留学生）
石丸太郎（長崎県古文化財調査委委員）

（３）第３次調査（1954年３月22日～３月26日・４月11日～４月20日）

川端（西谷）眞治（京都大学文学部助手）
金関恕（京都大学文学部学生）
Edward Kidder（京都大学留学生）

（４）第４次調査（1954年７月18日～８月18日）

調査班長　水野清一（京都大学人文科学研究所教授）
調査員　藤田国雄（東京国立博物館技官）

高橋猪之介（京都大学文学部事務官）
岡崎敬（京都大学人文科学研究所助手）
金関恕（京都大学文学部学生）
原口正三（京都大学文学部学生）
佐藤英美（京都大学文学部学生）
エレギィルス Elligiers（ベルギー UNESCO 留学生）

（５）第５次調査（1961年７月22日～８月11日）
調査班長　水野清一（京都大学人文科学研究所教授）
調査員　岡崎敬（九州大学文学部助教授）
高橋猪之介（京都大学文学部技官）
藤田国雄（東京国立博物館技官）
三木文雄（東京国立博物館技官）
秋山進午（大阪城天守閣学芸員）
潮見浩（広島大学文学部助手）
森貞次郎（福岡高等学校教諭）
深見清（京都大学大学院生）
西谷正（奈良学芸大学学生）

参考文献

高倉洋彰1982「原ノ辻上層式土器の検討」『森貞次郎博士古稀記念　古文化論集』下巻、森貞次郎博士古稀記念論文集刊行会、801-836頁
鴇田忠正1944「長崎県壱岐郡田河村原ノ辻遺跡の研究」『日本文化史研究』
水野清一・岡崎敬1954「壹岐原の辻弥生式遺跡調査概報」『対馬の自然と文化』、295-309頁
水野清一・樋口隆康・岡崎敬1953『対馬－玄海における絶島、対馬の考古学的調査』（『東方考古学叢刊』乙種第６冊）東亜考古学会
宮本一夫2017「日本人研究者による遼東半島先史調査と現在―東亜考古学会調査と日本学術振興会調査―」『中国考古学』第17号、7-20頁
宮本一夫編2008『壱岐カラカミ遺跡Ⅰ―カラカミ遺跡東亜考古学会第２地点の調査―』九州大学大学院人文科学研究院考古学研究室
宮本一夫編2009『壱岐カラカミ遺跡Ⅱ―カラカミ遺跡東亜考古学会第１地点の調査―』九州大学大学院人文科学研究院考古学研究室浸
宮本一夫編2011『壱岐カラカミ遺跡Ⅲ―カラカミ遺跡第１地点の発掘調査（2005～2008年）―』九州大学大学院人文科学研究院考古学研究室
宮本一夫編2013『壱岐カラカミ遺跡Ⅳ―カラカミ遺跡第５～７地点の発掘調査（1977・2011年）―』九州大学大学院人文科学研究院考古学研究室
宮本一夫編2018『壱岐原の辻閨繰遺跡・妙泉寺古墳群・鬼の窟古墳』九州大学大学院人文科学研究院考古学研究室